

優れた避難計画が命を救う！

2024年6月



図1. JAL 516 便の火災と航空機の位置関係

2024年1月2日、乗客367人と乗務員12人を乗せた日本航空（JAL）516便が東京羽田空港に着陸した。滑走路で海上保安庁の小型機と衝突し、両機は炎上した。小型機の乗員6人のうち5人が衝突で死亡した。日本航空516便は左エンジンが炎上したにもかかわらず、着陸後18分以内に機内の379人全員が無事避難した。

大型機から無事避難できたことは、避難計画が十分理解されていた結果である。操縦室と客室乗務員間のコミュニケーションが取れなかったにもかかわらず、516便は死者を出さなかった。乗務員は、安全を確認するとすぐに緊急脱出用スライドを膨らませるといった迅速な行動をとった。迅速かつ整然と乗客をスライドに誘導した。パイロットと客室乗務員は、迅速に飛行機から避難を開始するよう訓練されている。

安全な避難ができたもうひとつの理由は、乗務員が乗客に携帯電話以外のものは持ち出さないように指示したことである。他のものを持ち出せば、脱出が遅れて死亡事故につながる可能性があった。このことは航空会社の離陸前の安全メッセージでも強調されており、乗客はその指示に従った。

知っていますか

- 危険な化学物質を貯蔵または取り扱う工場は、緊急時対応計画に危険物質の流出およびガス放出を含めなければならない。
- 多くの国では、悪天候、洪水、地震、津波など、起こりうる予測可能な自然災害に対応する緊急時対応計画を文書化しておくことが企業に義務付けられている。また、この計画は、火災や事業所からの安全な避難を取り上げなければならない。
- 工場での火災は、あっという間に燃え広がる。オフィスであっても、カーペットやその他の可燃物に着火し、急速に燃え広がることもある。
- 火災や放出の影響を軽減する鍵は、緊急警報システムを即座に作動させることである。警報を鳴らすのをためらったり、遅れたりすると、避難や消火活動が遅れる可能性がある。
- 一部の法規では、避難経路、避難場所、集合場所など、分かり易い地図を要求している。

あなたにできること

- 避難経路、緊急避難場所、集合場所など、職場の緊急避難手順を把握すること。
- 自分の職場で、いつ、どのように緊急警報を起動するのかを知っておくこと。わからない場合は、上司に尋ねること。
- 防災訓練に積極的に参加すること。避難経路の乱雑状態、歩行路面の荒れ、出口標識がないなど、実際の緊急事態に影響するような問題があればメモして報告すること。
- 巡回や現場点検の際には、どのような緊急事態が起こり得るか、その緊急事態が避難計画に含まれているかどうかを考えること。
- 一度避難したら、「警報解除」が宣言されるまで戻らないこと。（2024年4月のBeaconを参照）

避難手順を知り、それに従うこと！